

健康都市連合日本支部第1回総会・大会

世界の都市と手をつなぎ

市民の健康づくりを目指す

WHO(世界保健機関)の提唱する健康都市への取り組みは、世界中のおよそ3000都市に広がっているといわれています。2003年10月にはWHO西太平洋地域事務所の呼びかけにより、フィリピンで健康都市連合が設立され、憲章が採択されました。そして翌年10月、マレーシアで「健康都市連合」の第1回総会が開催されています。

日本では、当時健康都市連合に加盟していた4市(沖縄県平良市・千葉県市川市・愛知県尾張旭市・静岡県袋井市)を発起人として、2005年4月に日本支部を設立。7月14日には市川市文化会館で「健康都市連合日本支部第1回総会・大会」が開催されました。健康都市に関心を持つ21市の担当者や、多数の市民が出席。第1部で、健康都市の考え方と世界各国での取り組みが紹介され、第2部では健康都市連合の会員5市(岐阜県多治見市含む)の市長から、地域の実情に合わせた独自の活動事例が発表されました。

これらの動きと併行し、市川市では2004年11月、WHO憲章の精神を尊重した『健康都市いちかわ』宣言を行

いました。2005年3月には、「市川市健康都市プログラム」を策定。さらに、市民が選ぶ「市川市健康都市市民賞」を創設し、11月5日に大洲防災公園で開催した「第30回いちかわ市民まつり」で、健康都市にふさわしい取り組みをしている市民や団体を表彰しました。受賞した武田紀昭さん(福栄在住)は、1人で始めた「み拾いの活動が、行徳野鳥観察舎周辺の道路や公園の整備をする市民活動へと発展。毎年少しずつ植えた桜が40本を数えるまでになりました。健康教育の取り組みで表彰された北方小学校校長の宮崎正明さんは、「心と体のバランスのとれた成長が何より大切」と語り、体育・食育・心の発達の各方面から児童の健康づくりを続けています。



「健康都市連合日本支部」で初となる総会と大会に約450人が出席



「健康」をテーマに、いちかわ市民まつり会場では多彩な催しが繰り広げられた



毎週金曜の朝「健康タイム」を設けている北方小学校の宮崎正明校長

「小中学校の花壇に四季折々の花を咲かせたい」と語る武田紀昭さん



オープニングセレモニーで、6個人・7団体に賞状と記念品が手渡された



2005千葉きらめき総体

市川が「女子ハンドボール競技」熱戦の舞台に

千葉県で初となる「全国高等学校総合体育大会」夏季大会が、「輝きを胸に 夢をその手に 房総の夏」の大会スローガンのもと、2005年8月1日から20日にかけて開催されました。1日に幕張メッセで開会式を行い、翌2日から選手たちは種目ごとに県内各地に分かれて競技を開始しました。



蝶のように舞い、蜂のように刺すシュートが魅力のハンドボール

市川市は女子ハンドボール競技の会場となり、2日から7日まで熱戦が繰り広げられました。試合は、



昭和专业高等学校は2年連続で高校総体第3位

47都道府県大会の優勝校に、開催地である千葉県の準優勝校を加えた48チームによるトーナメント戦。市内の



高校生たちが「一人一役」、大会の運営や応援などに活躍した

昭和专业高等学校が千葉県で優勝、全国初制覇の夢に挑みました。結果は、京都府立洛北高等学校が優勝、沖縄県立陽明高等学校が準優勝、昭和专业高等学校は第3位となりましたが、個人得点ランキングでは同校の溝井友貴選手が第1位に輝き、底力を見せつけました。男子ハンドボール競技は佐原市で行われ、市川高等学校が3位に入賞しています。

また、この大会では、高校生がなんらかの形で参加する「一人一役活動」を展開。市川市でも19校の生徒たちが、競技のPR、選手の歓迎、会場案内、大会運営の手伝いなど積極的に活動し、高校生の祭典を盛り上げました。

Topics

3

水木洋子シナリオ賞

新たな才能を発掘し、シナリオ作家を育てる



千葉光行市川市長と、受賞を喜ぶ熊子さん(右)、佐竹麗さん(左)

水木洋子さんは、「また逢う日まで」「ひめゆりの塔」「浮雲」などの名作映画を手がけた女流脚本家の草分けです。2003年に92歳で逝去され、自宅や自筆原稿など一切の財産は生前の意思により市川市に寄贈されています。

市では、水木さんの財産をもとに「市川市水木洋子文化基金」を設けて顕彰事業を実施。その一つが、新人シナリオコンクールの特別賞として創設した「市川市水木洋子シナリオ賞」です。180編の応募の中から『flower』熊子さん(千葉県在住)、『押入れ』佐竹麗さん(東京都在住)の受賞が決定。2005年5月27日、赤坂プリンスホテルで受賞式が行われ、賞状および賞金各50万円が贈られました。



貴重な作品をガラスケースで覆わず、そのまま展示するのは非常に稀なこと



藤田喬平さんは戦後すぐにガラス作家を志し、長年にわたり市川で創作活動を続けてきました。

追想 藤田喬平、ガラスの世界 遺族からの寄贈作品や 特別出品など70点を展示

ガラス造形に日本的な感性を加え、色ガラスに金箔を施した「飾筥（かざりばこ）」で独自の世界を確立。現代ガラスの第一人者として「フジタガラス」は国際的にも高く評価され、ガラス造形作家として初の文化勲章を受章しています。

その藤田さんが83歳で逝去されたのは、2004年9月18日のことです。翌年3月に遺族から、スウェーデンとイタリアで制作した作品30点が市に寄贈されました。藤田さんの一周忌に寄せて、これら寄贈作品を中心に藤田ガラスの軌跡をたど



上から
飾筥『紅白梅』（1989年頃）
『春』『ドゥカーレ』（1982年）
『Apple』（2000年）
『昇る太陽』（2001年）



る展覧会を、9月17日から10月30日まで芳澤ガーデンギャラリーで開催しました。これまで市が収蔵した作品と藤田家からの特別出品を加えて約70点を展示。流動ガラス、オブジェ、飾筥、ヴェニススの伝統的技法による花瓶や茶道具など、多彩な作品が人々を魅了しました。

会期中、「藤田喬平ガラスの世界を語る」をテーマに、藤田さんと親交のあった美術評論家・武田厚さんと、藤田さんの長男でガラス造形作家である藤田潤さんによる対談も行われました。

藤田 喬平

1921年東京生まれ。1955年市川市北方に居を構える。1957年以降、個展を多数開催。1973年に飾筥最初の作品「菖蒲」を発表。日本を代表するガラス作家として高い評価を受け、1975年以降は海外への招待出品が頻繁となる。1996年宮城県松島に藤田喬平ガラス美術館開館。1999年市川市名誉市民となる。2002年文化勲章受章。2004年逝去、享年83歳。

市川の文化人展「白寿記念 彫刻家 大須賀力」 庭園にも野外彫刻を展示、作品に込めた思いに迫る



オープニングセレモニー

大須賀 力

1906年東京生まれ。1927年市川市中山に居を構える。1931年東京美術学校卒業。1932年第13回帝展で「首飾りの女」が特選。1970年「若き女」が文化庁賞上。1973年第5回日展で「或るポーズ」が内閣総理大臣賞受賞。1976年千葉県文化功労者として表彰。1978年勲四等瑞宝章受章。1994年市川市名誉市民となる。



文化の薫り高いまち・市川。この市川市ゆかりの文化人や芸術家を広く紹介しているのが「市川の文化人展」です。2005年7月1日から8月21日にかけて、白寿(99歳)を迎えて意欲的に創作活動を続けている彫刻家・大須賀力さんの展覧会を芳澤ガーデンギャラリーで開催しました。

大須賀さんは1927年に市川市中山に居を構えて以来、この地で数々の作品を制作し、日展を中心に活躍してきました。市内・県内には野外彫刻作品も多数あり、人々に親しまれています。文化人展では女性像、動物像、デッサンなど約50点の作品とともに、制作エピソードや作品への思いなどを紹介。庭園内にも野外彫刻が設置されました。

パパとママの元ですくすく育ち、遊ぶしぐさも日々愛らしくなる

レッサーパンダの赤ちゃん誕生 一般公開が始まり、 動植物園のアイドルに

2005年6月、市川市動植物園でレッサーパンダの赤ちゃんが誕生しました。まず14日にカツオとシーンファの間に「ハオちゃん」が産まれ、人工哺育で大切に見守られてきました。続いて25日には天天とナミの間に2頭が産まれ、順調に大きくなっています。

赤ちゃんの一般公開が始まったのは9月10日。初日は、かわいい赤ちゃん見たさに観客約2000人をはじめテレビカメラなども集まり、大盛況となりました。10月1日から、まだ名前が決まっていない2頭のため名付け親を募集。「リントライチ」に決定



し、11月20日に約450人もの人たちが見守る中で命名式が行われました。

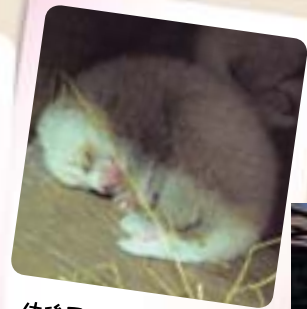
これまでも市川市動植物園では、レッサーパンダの繁殖に何回も



生後約70日齢 見た目は
お母さんパンダそっくり。
ちょっと鼻相が悪いかな



生後28日齢 4週間たつと
すっかりパンダらしくなる



生後7日齢 生まれた時は
体が白く、体重は100
~150gぐらい



園内の一番奥、ミニ鉄道前にある
レッサーパンダ獣舎が人気の的に



生後約120日齢 4か月たつと
一般公開したころ。お母さんと
のんびり過ごす日々

コミュニティバスの社会実験運行 乗降しやすいノンステップバスが市内を巡回



「遠出するとき便利」「買い物や通院などに利用したい」と市民の期待は大きい

を検証し、本格的に導入するかどうかを決定します。

バス停や鉄道駅などから遠い「交通不便地域」を解消することは、高齢化社会を迎えるにあたりますます重要となっています。そのため市川市では、住宅地と公共施設、病院、商店街駅などを結ぶコミュニティバスを試験的に走らせ、導入の効果を確かめることにしました。

2005年9月26日にはコミュニティバスお披露目会を行い、市民や関係者などが試乗しました。実験運行の期間は、10月1日から2006年3月31日まで、運行ルートは市北東部(大野・柏井・北方周辺)と市南部(妙典・行徳・南行徳周辺)の2つです。半年間の実験運行の後に、利用者の動向や地域住民への影響などを検証し、本格的に導入するかどうかを決定します。



お披露目会で「安全、確実、迅速、快適な運行を目指す」と力強く安全運転宣言